令和 7 年度 県立玉造工業高等学校自己評価表

目指す学校像	<ul style="list-style-type: none"> ・至誠・勤勉・協和の校訓を基本に、現代社会における工業の果たす役割を理解させ、適切な技能、技術の習得を図る。 ・地域社会で活躍できる工業人の育成を図る。 ・すぐれた個性の伸長と豊かな人間性の育成に努める。 		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 知識や技術、豊かな心と協調性を身に付けた規律ある工業人の育成 ○ 意欲を持って学習や資格取得、学校生活に取り組み、地域社会で活躍できる工業人の育成 	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域社会で活躍できる工業人として必要となる基礎的な知識・技術を育む ○ 学習活動や特別活動、部活動を通して、地域社会で活躍できる工業人として必要な人間力や規範意識の育成 ○ 工業人としての知識・技術の向上を目指し、資格取得や競技会等へ積極的に取り組む ○ 卒業後の進路を考慮した計画的な進路指導の実現 	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 工業に興味を持ち、学業などに積極的に取り組み、ものづくりや資格取得に目的意識を持って取り組む意欲のある生徒 ○ あいさつができ、教員や友人の話を素直に聞くことができる生徒 ○ 規律の意義を理解し、互いの人権を尊重し、学校や社会のルールを守り、安全な学校生活を送ることができる生徒 ○ 自分の進路実現を目指し、日々努力する生徒 	
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ・朝学習の効果をフィードバックできる仕組みを作り、生徒自身が学力向上を実感できるようにする。自己肯定感の向上および学習意欲の向上を図る。 ・教員の ICT 活用法にばらつきが見られるため、ICT の活用事例を共有し、効果的な活用法を広めるための研修・情報提供の充実を図る。 ・学習意欲が低い生徒やタブレットを忘れがちな生徒に対して、進捗が遅れないように対策を講じる。また、ICT を活用した授業の質を向上させるため、ICT ソフトや授業での活用方法を再検討し、タブレット端末の使い方や貸出方法を改善する。 ・校内ドライブに残っている古いデータ等を、整理する必要がある。不要なデータを削除し、 	<p>分かる授業の展開による基礎学力の向上と学習意欲を向上させるための授業改善を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 生徒の実態に応じ、学習内容を精選して基礎学力の向上を図る。 ② 各教科内で研修を充実させ、分かる授業の展開と教科間の連携を図る。 ③ 学習規律の向上を目指すとともに、習熟度別授業の充実を図る。 ④ 生徒の主体的に学ぶ意識を育むため、家庭学習の定着化を図る。 ⑤ 資格取得指導の充実を図る。 ⑥ 進学希望者へ適切な指導を計画実施する。 	

別紙様式 2 (高)

<p>現状のデータ管理体制を見直すことで、効率的な情報管理に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校 HP の活性化を進め、地域や保護者に学校の教育活動を広く伝えられるよう努める。さらに、情報発信の偏りがないように、すべての教科や学科の活動をバランスよく紹介することを意識する。 ・SNS や動画を活用して学校紹介のプレゼンを制作し、保護者や中学生の関心を引き、進学希望者を増加させる。 	<p>基本的な生活習慣の確立と規範意識の育成を図るとともに、交通安全教育の推進に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ⑦ 挨拶の励行と欠席・遅刻・早退の減少に努める。 ⑧ 頭髪や服装等を正そうとする意識の醸成を図る。 ⑨ 社会人として必要な公共のマナーの習得を図る。 ⑩ 保護者や関係機関との連携を密にとり、生徒の安全確保に努める。 ⑪ 交通安全教育を推進し、交通安全に対する意識の向上を図る。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業を通じて授業力を向上させることができたが、今後は教員同士の相互授業参観を促進し、全体的な授業力の向上を目指す。また、若手教員を中心に授業公開を実施しているが、全教員が年間 1 回以上授業公開を行い、学校全体で授業力の向上を目指す。 	<p>望ましい勤労観や職業観の育成に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ⑫ 全学年を通じ、計画的に進路に対する意識向上を図り、希望進路の実現を図る。 ⑬ 企業見学やインターンシップを実施、また外部講師による講話などキャリア教育の充実を図る。 ⑭ 企業及び大学等の情報を広く収集し、進路選択に役立たせる。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の毎朝の挨拶運動により、挨拶の習慣が身についた生徒が増加した。また、PTA マナーアップや生徒会と委員会の生徒によるマナーアップ運動の実施により、生徒や保護者が主体となって取り組む機会を設けることができた。今年度は冬季において欠席する生徒が増えたため、次年度は秋季のうちから啓発を実施していく。 ・昨年度は SNS に関連した問題行動が多く見られたため、年度初めから繰り返しの注意喚起を実施した。結果として SNS に関連した問題行動を大幅に減少させることができた。SNS に関連したモラルや規範意識の向上は必要不可欠であるため、今後も継続して取り組んでいく。 ・原付バイクについて車体整備や乗り方のルールを繰り返し指導した。これにより昨年度に多く見られた整備不良が減少した。外部からの指摘は減少したものの、交通事故防止に向けて登 	<p>学校行事の充実ならびに、部活動及び奉仕体験活動の活発化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ⑮ 学校行事を通して生徒、保護者、地域との交流を図り、より充実感や達成感のあるものにする。 ⑯ 部活動加入率を高め、活性化を図る。 ⑰ 奉仕体験活動を充実させる。 ⑱ 生徒の委員会活動を活発にする。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・原付バイクについて車体整備や乗り方のルールを繰り返し指導した。これにより昨年度に多く見られた整備不良が減少した。外部からの指摘は減少したものの、交通事故防止に向けて登 	<p>中学校や地域と連携を図り、開かれた学校づくりに努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ⑲ 近隣中学校並びに地域への広報活動を充実し、入学者数の増進を図る。 ⑳ 小中学校への出前授業を行う。 ㉑ 行事を本校及び教育委員会のホームページ上で発信する。 ㉒ 生徒・保護者及び教職員の相互の信頼関係を深める。 ㉓ 個人情報の保護、管理の徹底に努める。 	

別紙様式 2 (高)

<p>下校時の速度超過等の違反がないように指導を徹底していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の早期進路目標確立のための情報提供および、各学年と連携・協力し、組織的で統一した進路指導に取り組む。他の職員にもデジタル管理となった求人票や受験報告書の使い方、令和6年度から導入された高卒求人の変更点などの情報提供を行い、共通理解を図る。また進路業務の更なる精選を進め、システムの改善や効率化を図る。 ・生徒指導部と協力して特別支援体制を確立する。 ・防災対応能力の育成に努める。 ・速やかに修繕箇所を把握し修理する。 ・感染防止に努め、校内での衛生面に注意を払う。 ・PTA役員選出について、意識調査（アンケート）等を実施し、地区割りにとらわれず、今年度の役員から次年度の役員を選出できる雰囲気作りをし、無理のない選出方法を検討する。後援会役員選出についても、PTA役員とも連携し、安定的な選出を目指す。 ・業務全般について、持続可能とするために諸業務の精選を検討し、図書館業務については専門知識の習得に努める。 ・予算配分について、少子化に伴い生徒数減が予想されてしまうため、より生徒に還元できるよう検討する。 ・チャーターバスの乗車マナーや効率的な運行について、迅速な対応に努める。 ・学校行事のスムーズな運営のため、文化祭を校内発表のみとした。内容等をよく検討し、この実施内容でも充実した行事となるよう検討する。 ・クラスマッチでは球技を中心とした内容となっているが、次年度は運動だけではなく、文化 	<p>安全で衛生的な環境作りを目指し、心身ともに健やかに学校生活を送れるように努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ②4 心と体の健康に留意し、健全な生活を送れるような体制作りを努める。 ②5 安全で衛生的な環境作りに努める。 ②6 不測の事態に備え、防災意識を高める。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・防犯対策の徹底を図る。 ・生徒指導部と協力して特別支援体制を確立する。 ・防災対応能力の育成に努める。 ・速やかに修繕箇所を把握し修理する。 ・感染防止に努め、校内での衛生面に注意を払う。 ・PTA役員選出について、意識調査（アンケート）等を実施し、地区割りにとらわれず、今年度の役員から次年度の役員を選出できる雰囲気作りをし、無理のない選出方法を検討する。後援会役員選出についても、PTA役員とも連携し、安定的な選出を目指す。 ・業務全般について、持続可能とするために諸業務の精選を検討し、図書館業務については専門知識の習得に努める。 ・予算配分について、少子化に伴い生徒数減が予想されてしまうため、より生徒に還元できるよう検討する。 ・チャーターバスの乗車マナーや効率的な運行について、迅速な対応に努める。 ・学校行事のスムーズな運営のため、文化祭を校内発表のみとした。内容等をよく検討し、この実施内容でも充実した行事となるよう検討する。 ・クラスマッチでは球技を中心とした内容となっているが、次年度は運動だけではなく、文化 	<p>働き方改革の実現に向け、校務の改善、簡素化などの見直しに努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ②7 校務のマニュアルの作成及び内容の明確化を図る。 ②8 校務の簡素化など見直しを行う。 ②9 会議の効率化を図る。 ③0 勤務時間に対する意識を高め、時間外勤務の短縮に努める。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・防犯対策の徹底を図る。 ・生徒指導部と協力して特別支援体制を確立する。 ・防災対応能力の育成に努める。 ・速やかに修繕箇所を把握し修理する。 ・感染防止に努め、校内での衛生面に注意を払う。 ・PTA役員選出について、意識調査（アンケート）等を実施し、地区割りにとらわれず、今年度の役員から次年度の役員を選出できる雰囲気作りをし、無理のない選出方法を検討する。後援会役員選出についても、PTA役員とも連携し、安定的な選出を目指す。 ・業務全般について、持続可能とするために諸業務の精選を検討し、図書館業務については専門知識の習得に努める。 ・予算配分について、少子化に伴い生徒数減が予想されてしまうため、より生徒に還元できるよう検討する。 ・チャーターバスの乗車マナーや効率的な運行について、迅速な対応に努める。 ・学校行事のスムーズな運営のため、文化祭を校内発表のみとした。内容等をよく検討し、この実施内容でも充実した行事となるよう検討する。 ・クラスマッチでは球技を中心とした内容となっているが、次年度は運動だけではなく、文化 	<p>キャリアパスポートに関するもの</p>	<ul style="list-style-type: none"> ③1 キャリアパスポートの活用により、自発的・自主的な学校行事への参加を促す。 ③2 地域に貢献できる工業人として、働くという自らの将来の生き方に関連する情報を収集し、活用できる力を身に付ける。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・防犯対策の徹底を図る。 ・生徒指導部と協力して特別支援体制を確立する。 ・防災対応能力の育成に努める。 ・速やかに修繕箇所を把握し修理する。 ・感染防止に努め、校内での衛生面に注意を払う。 ・PTA役員選出について、意識調査（アンケート）等を実施し、地区割りにとらわれず、今年度の役員から次年度の役員を選出できる雰囲気作りをし、無理のない選出方法を検討する。後援会役員選出についても、PTA役員とも連携し、安定的な選出を目指す。 ・業務全般について、持続可能とするために諸業務の精選を検討し、図書館業務については専門知識の習得に努める。 ・予算配分について、少子化に伴い生徒数減が予想されてしまうため、より生徒に還元できるよう検討する。 ・チャーターバスの乗車マナーや効率的な運行について、迅速な対応に努める。 ・学校行事のスムーズな運営のため、文化祭を校内発表のみとした。内容等をよく検討し、この実施内容でも充実した行事となるよう検討する。 ・クラスマッチでは球技を中心とした内容となっているが、次年度は運動だけではなく、文化 	<p>授業改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> ③3 授業評価アンケート項目における肯定的評価の向上を図る（A90%以上 B80%以上 C70%以上 D60%以上 E60%未満） ③4 高校生のための学びの基礎診断における「平均 GTZ 指数」C2～D2を目指す。 ③5 茨城県教育委員会が主催する生徒評価アンケートによる生徒満足度（KPI）の平均値 3.6 以上を目指す。 	

別紙様式 2 (高)

<p>的な要素も含めた実施内容とし、多くの生徒が主体的に参加できるように検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動再編が進む中で計画的に運営し、活動の充実を図る。また、生徒の希望する活動が維持できるように検討する。 ・各種のボランティア活動や高校生会などの案内を通じて、積極的な参加を促すようにする。 				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
国語： 教科指導 （普通教科）	語彙力を向上させ、適切な言葉を用いて、自分の考えを表現する力を養う。作品を通して様々な考えに触れ、多様化する時代の中で生き抜く力を育む。	文章を書いたり発表したりする体験を通して、言語的表現に関する知識を獲得する。①		
		ICT を活用し、新聞や映像といった教科書に依らない資料を積極的に用いる。また、教員間で ICT 教材の情報共有を行い、授業内容の充実を図る。②③⑤		
		毎時間漢字ワークに取り組む時間を設定し、定期的に小テストを行う。③		
地歴・公民： 教科指導 （普通教科）	基礎学力・学習意欲の向上を図るとともに、考える力・表現する力・メディアリテラシーを養う。社会の事象を主体的に理解し、公正・公平に判断する力を養う。	タブレットや電子黒板から映像資料を見せたり調べ学習をしたり、Google Form から小テストなどを実施し学習内容の理解の深化を図る。①③⑤		
		指導内容・方法についての打ち合わせを定期的に行い、共通理解を図る。②		
		生徒の身近にある問題を取り上げるなど、学習内容を生徒の生活や他教科との既習事項と結びつけることで、学習意欲の向上を図る。①②		
数学： 教科指導 （普通教科）	基礎学力の向上を図り、習熟度別授業の充実を図る。	複数教員の指導により生徒の状況を把握し、基礎学力の向上を図る。①②③		
		ICT 機器を活用し視覚に働きかける教材での授業展開を工夫し、生徒の意欲向上を図る。また、生徒の授業満足度 B 段階以上を目指す。③⑤		
		課外授業を実施し、課題未提出者に対して家庭学習習慣の定着を図り、進学希望者や数学検定受検希望者に対して学力向上に努める。④⑤⑥		
理科： 教科指導 （普通教科）	身のまわりの事物・事象と関連を図りながら、基礎学力の定着と学習意欲の向上に努め、選択授業では学習の到達度に応じて発展的な内容の授業を行う。	学習の導入に視聴覚教材を効果的に活用し、生徒の興味・関心を高める。生徒による実験の機会を積極的に取り入れ、科学的な見方・考え方を涵養するとともに、学習意欲の向上を図る。①		
		問題演習や小テスト等の時間を確保し、学習内容を確実に定着させるとともに、ICT 機器を効果的に活用し、生徒による授業評価において B 評価以上を目指す。①④③⑤		
		指導方針や指導内容等について定期的に話し合いを行い、担当者間で共通理解を図ると		

別紙様式 2 (高)

		もに、指導力の向上に努める。②		
保健体育： 教科指導 (普通教科)	課題設定を工夫し、基礎体力の向上を図る。 服装や整列等の規律を徹底する。	生徒の実態に合わせた技能の到達目標を作成する。到達目標に向けた課題を自ら考え、ICT 機器を利用し、スキルと基礎体力を高めるよう促す。また、生徒の授業満足度 B 段階以上を目指す。①②③⑤ 集団行動の授業の推進し、集団で学ぶ意義や楽しさを理解させる。各種目における課題練習をし、試合の時間を設定する。③⑧⑨		
書道： 教科指導 (普通教科)	書写能力の向上を図り、基礎的な技能を身に付け、主体的に書の幅広い活動に取り組み、書の伝統と文化に親しむ。	文字(特に自分の氏名)を読みやすく丁寧に書く方法を知り、繰り返し練習する。 普段から丁寧な書字を意識し、ノートやプリントの記入を行う。①⑫③⑤ 古典作品の臨書により毛筆技能を身につけ、マス目ノートを利用して硬筆技能を向上させる。履歴書の書き方を学ぶ。①⑫③ 主体的に書の活動に取り組みで作品を仕上げ、日常における書に目を向ける。書を鑑賞する際に用いる用語について、語彙を増やす。①③		
英語： 教科指導 (普通教科)	学力向上に努め、対話から深く学ぼうとする態度を養う。	ワークブック、プリント等による授業を展開し、定期的に点検することで生徒の実態把握に努め、学習内容の精選を図る。①③④ 生徒が主体的に取り組めるように、電子黒板やタブレット等の ICT 機器を活用する授業の展開に努め、生徒の授業満足度 B 段階以上を目指す。⑤⑥③⑤ 遊びの要素を取り入れながら、交流活動を通して異文化を学び、多文化共生社会で生きる態度を身に付ける。②⑨		
家庭： 教科指導 (普通教科)	家庭科に関する基本的な知識・技能を身に付け、実生活に生かそうとする態度を養う。	ワークブック、プリント等による授業を展開し、定期的に回収・点検することで生徒の実態把握に努め、学習内容の精選を図る。① ICT 機器を効果的に活用し、生徒が主体的に学習に取り組むことができるようにする。②③ 生徒の身近にある課題を取り上げ、実生活に生かそうとする態度を養う。⑥⑨		
機械： 教科指導 (専門教科 ・工業)	生徒一人一人に合った基礎学力の向上、知識・技術・技能の指導を実践する。また教職員もそのためのスキルアップに日々努める。	実習内容の工夫および改善等(実用的な教材の開発)に継続的に取り組み、生徒が 3 年間で身につける能力(技術・技能等)をより明確にする。また教職員も資格取得等、自身のスキルアップに努める。①②⑨ 生徒に自己評価をさせることによって、生徒自身に新たな目標を持たせるとともに、一人一人の実態を把握することにより、個々の生徒に適した指導の実現を目指す。③④ 資格取得等の目標を持たせることにより、その達成への前向きな姿勢を定着させるとともに、学習意欲を高める。また、技能検定(旋盤、検査)やものづくりコンテスト等の担当者を増員し指導体制の充実強化を図る。さらに ICT 教育の効果的な授業での活用の実践にも努め、生徒の授業満足度 B 段階以上を目指す。④⑤③⑤		

別紙様式 2 (高)

電気： 教科指導 (専門教科 ・工業)	電気に関する基礎的・基本的な知識・技術の習得に向けて効果的な指導を図り、第二種電気工事士をはじめとした資格取得の指導の充実に努める。	電気に関する基礎的・基本的な知識について教科内で意識を共有し、授業内容を精選し、基礎学力の向上を図る。また、ICTを活用し、指導体制の充実に図り、生徒による授業評価でB評価以上を目指す。①③⑤		
		基礎的・基本的な知識・技術の習得が図れるような実習の指導体制の構築及び座学の内容を見直し、実習・座学間の連携を図る。①②		
		第二種電気工事士及び第一種電気工事士の資格取得のための指導体制の充実に図る。また、資格取得を通して主体的に学ぶ意識の向上、家庭学習の定着を図る。④⑤		
情報技術科： 教科指導 (専門教科 ・工業)	ICTに関する基礎学力の向上、知識・技術・技能の効果的指導に努めると共に、資格取得に挑戦する指導に努める。	教科内で教職員の共通理解のもと、授業内容を精選し、卒業までに身につけさせたい能力と基礎学力の確実な定着を目指す。また、生徒の授業満足度 B 段階以上を目指す。①②③⑤		
		教科指導方法の情報交換や、わかる授業の指導方法の検討、実験装置の操作研修を行い、授業および資格指導の指導力向上を目指すとともに、授業に生かす。①②⑤		
		技能士、各種検定や国家試験等、資格試験指導の案内と指導を充実させ、挑戦、合格させることによって達成感や成就感の深化を図る。①⑤		
各科共通： 教科指導 (普通教科 ／専門教科)	地域との連携・協力を努める。	地域の小中学校等と連携を図り、地域振興に寄与する人材育成の循環を目指す。⑱⑲		
教務	基礎学力の向上を図る。	基礎学力の向上や資格取得に対する意欲を育むために、朝の学習の時間の確保に努める。④⑤		
		数学、英語と連携を図り、習熟の程度に応じた指導体制の工夫と改善を図る。②③		
	教育課程の編成と運営に努める。	各教科と連携を図り、教科の特性や生徒の実態に応じた新教育課程の検討を行う。②		
		教育課程を適切に実施するために、授業時間の確保と調整を行う。①		
	校内研修の充実に努める。	ICT、特にタブレット PC の授業活用ならびに教材開発などの研修を行い、教員の情報機器を活用した授業の推進に努める。②③		
		校内の公開授業を行い、授業力の向上に努める。②③		
		校内研修の充実に努めるとともに、各種会議の効率化を図る。⑲⑳		
	広報活動の充実に努める。	玉工通信の定期的な発行と学校パンフレットを充実させ小中学校へ配付する。また地域と連携した出前授業を行うなど、広報活動に努める。⑱⑲		
		中学生や保護者、地域の方を対象とした学校公開を行い、開かれた学校づくりに努める。⑮⑱		
		学校Webページを特活部と連携し内容を充実させ、学校の特色や魅力を伝える情報発信		

別紙様式 2 (高)

		に努める。⑳		
		「玉メール」を活用し、生徒と保護者へ連絡や情報発信に努める。㉑		
	教育情報に関するネットワークの整理と管理に努める。	校内システムとデータを整理し、教職員が利用しやすい環境を整える。㉓㉗		
		教育情報ネットワークの活用と、セキュリティーの強化及び個人情報の保護に努める。㉓		
生徒指導	基本的な生活習慣の育成・確立を図る。	挨拶の励行や遅刻、早退、欠席の減少に努める。㉗		
		服装、頭髪に対する意識向上指導に努める。㉘		
	規範意識の育成を図る。	社会人として必要なマナーやモラル習得に努め、規範意識の向上を図る。㉙		
		保護者や関係機関との連携を図り、生徒の規範意識向上と安全確保を図る。㉚		
	安全教育の推進に努める。	交通安全教育を推進し、安全への意識向上を図る。㉛		
進路指導	早期進路目標の確立と望ましい勤労観、職業観の育成を図る。	ホームページや進路通信の発行、学年集会への参加などを通して、就職や進学に関する情報を積極的に発信し、生徒・保護者への情報提供に努める。㉜㉝		
		職業安定所職員や学校、企業等から外部講師を招き、進路講話を企画、実施する。㉞		
		進路に関する業務の学校側の窓口として、関係機関と連絡を取り合い、企業が企画する合同企業説明会や企業見学などの案内や調整を行う。㉟㊱㊲		
	校務の効率化を図ると共に、組織的で統一した進路指導に努める。	各学年と進路指導部で情報を共有し、計画的で、組織的な進路指導が行えるように努める。㉛㉜㉝		
		I C Tを積極的に活用し、生徒・保護者への情報提供および校務の改善や進路業務の効率化を図る。㉞㉟㊱		
		進学希望者に必要な受験案内や学習情報を提供するとともに、各教科とも連携して適切な支援を実施する。㉒㉛		
保健厚生	安全で衛生的な環境を作る。	月末に環境安全点検を行い、修繕箇所を把握と速やかな修繕に努める。㉞		
		清掃の徹底を図り、各種施設利用のマナーの定着・習慣化を確実なものにする。㉞		
	健康の保持増進を図る。	健康診断や事後措置、講演会を計画的に実施し、自身の健康に対する意識向上を図る。㉟		
	特別支援体制の確立と、教育相談の更なる充実。	特別支援体制を確立し、支援を要する生徒に対して、校外協力機関と連携し適切な支援に努める。㉛		
	災害対策マニュアルの見直しと、防災意識を喚起する。	各種災害に備えた防災マニュアルの整備と見直しを行い、将来の地域防災の担い手として育成する。㉟		
渉外	P T A活動を活発にする。	学校行事を通して保護者との交流を図り、より参加しやすく充実感や達成感のあるものにし、持続可能な組織づくりに努める。㉝㉞		
	チャーターバスの安全運行の継続に努める。	保護者や関係機関との連携を密にとり、生徒の安全確保に努める。㉚		
	生徒の校内外での安全確保に努める。	挨拶の習慣や公共のマナーを身につけさせる。㉗㉘㉙		
	図書館の利用を促進する。	購入図書の実用性を高め、情報発信に努める。㉜㉝		
特別活動	学校行事の充実。	クラスの数に偏りがある。行事の実施方法を工夫し充実した活動ができるよう検討して		

別紙様式 2 (高)

		いく。また、学校行事への自発的・自主的な取組を促すため、キャリアパスポートの活用を図る。⑮⑳		
	部活動の活性化。	新入生の部活動加入率を向上させ部活動の活性化を図る。また、定期的に部活動顧問会議を開催し、情報交換を図り部活動の継続率を上げる。⑯		
	奉仕活動の充実。	ボランティア活動を積極的に奨励し、地域の各種ボランティア行事への積極的な参加を促す。⑰		
	広報活動の充実。	学校 HP を活用した学校行事や部活動の情報発信を積極的に行う。また、本校主催の地域交流事業を継続し、地域住民との積極的な交流を図る。⑮㉑		
	生徒会活動を活発にする。	学校行事を生徒会役員や委員会が主体となって運営できるよう、委員会集会を定期的に開催し学校行事の円滑な運営を行えるようにする。⑱		
第 1 学年	基礎学力の向上を目指す。	教科間で連携を図り、生徒の実態把握に努め、学習意欲の定着・向上、主体的な学習態度を育成する。さらにタブレット端末を有効活用する。①②③③		
		積極的な授業への取り組みを促し、繰り返しを通して基礎・基本を定着させる。各教科からの課題等を課すことで家庭学習の定着を図る。④④		
		資格取得、課外授業、部活動等に対し積極的・継続的に参加する姿勢を育成する。⑤⑯		
	基本的生活習慣の確立と規範意識の育成を図る。	家庭との連絡を密に取り、生活状況を把握し、欠席・遅刻・早退の防止に努める。⑦⑩		
		頭髪服装指導、校内巡視を定期的に実施し、高校生らしい身なりやマナーを身につけさせ、規範意識の向上を図る。⑧⑨		
		部活動や学校行事を通して、協調性や社会性の向上を図る。また、情報教育の一環として、SNSでのトラブル防止、情報モラルの育成を図る。⑮⑯⑳㉑		
進路目標の早期明確化を目指す。	面談等を通して進路に対する関心を高めるとともに、社会人として必要なマナーの向上を図る。⑨⑫			
	進路ガイダンス等を実施し、個々の適性を見出す機会を設ける。⑫			
	進路に対する総合的な探求の時間の充実を図り、会社・学校見学を実施するなどキャリア教育の充実を図る。⑬⑭			
第 2 学年	基本的生活習慣の確立と規範意識の育成を図る	服装頭髪検査と校内巡視を通して身だしなみやマナーを身につけさせ規範意識の徹底を図る。⑧		
		学校教育の中に情報教育を取り入れ、SNSでのトラブル防止、情報モラルの育成を図る。⑨㉑		
		家庭との連携を密にし、生活状況を把握し、遅刻・欠席・早退の減少に努める。⑦⑩㉑㉒		
	部活動や学校行事を通して協調性や社会性の向上を図り、充実感や達成感が得られる学校生活とする。⑨⑯			
	基礎学力の向上を図る	積極的な授業への取り組みを促し、基礎・基本の定着と学習の習慣化を図る。各教科から		

別紙様式 2 (高)

		<p>の課題等を課すことで家庭学習の定着を図る。④⑭</p> <p>授業においてICT機器を積極的に活用し、学ぶ意欲の向上と定着を図る。⑬</p> <p>資格取得の案内や補講、課外などから意欲的な資格取得を目指す生徒を育成する。⑤</p> <p>考查ごとにキャリアパスポートを活用し、振り返りの充実を図り、次回に向けての目標設定を行うことで学力向上につなげる。①⑱</p>			
	進路目標の早期明確化及び意識の向上を図る	<p>進路ガイダンスを実施し、上級学校や企業見学等への積極的な参加を呼びかけ、進路に対する関心を高めると共に、「handy 進路指導室」の有効活用を図る。⑫⑭</p> <p>進路指導部と連携して主体的に情報を収集できる環境を整えると共に、キャリアパスポートの利用、面談等を行い個々にあったきめ細かい指導を心がける。⑬⑱⑲</p>			
第3学年	<p>基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を図る</p> <p>安全・安心な学習環境づくりと基礎学力の向上を図る</p>	<p>個別面談を積極的に行うこと、家庭との連絡を密に取ることで生徒の生活状況を把握し、必要な支援を行い、欠席・遅刻・早退の減少に努める。⑦⑩</p> <p>授業や学校行事等において、情報モラルについて考える機会を設定し意識を高めることで、SNSトラブルの防止、情報モラルの育成を図る。⑨</p> <p>服装頭髪検査と校内巡視等を通じ進路活動における面接指導等を通して身だしなみやマナーを身につけさせ規範意識の向上とコミュニケーション力の向上を図る。⑧⑨</p>			
	希望進路の実現を目指す	<p>タブレットを用いた学習を進めることで、自ら学ぶ習慣を身につけさせるとともに、基礎・基本の定着を図る。⑬⑭</p> <p>考查後に、次回の目標設定や学習計画の作成を行う等、振り返りを行うことでよりよい学習環境を整えるとともに、基礎学力の向上を図る。①</p> <p>朝学習においてSPIの問題を取り入れるなど、就職試験に向けてより効果的な時間になるように工夫し基礎・基本の定着と学習の習慣化を図る。④⑳</p> <p>進路ガイダンスや面接指導等の進路に対する対策を組織的・計画的に行うことで、進路意識の向上を図るとともに主体的に進路活動に取り組む姿勢を育む。⑫⑬⑭</p> <p>進路指導部との連携と「handy 進路指導室」を有効に活用することで、生徒一人一人に合ったきめ細かい進路指導と効率的な進路指導を目指す。⑪</p>			

※ 評価規準：A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である。 E：できていない